

法戦式は法の戦いの式と書きます。

法戦式とは、お寺の住職が、この者ならば修行僧の模範として、リーダーとしてやっつけていけるだろう、と見込んだ若い修行僧を推薦し、多くの僧侶の質問、つまり禅の問もんどう答ぶつぼうに答え仏法を説く儀式をいいます。この禅問答ぜんもんどうに答える修行僧を、首座（しゅそ）と呼びます。首座とは、総理大臣を首相と呼ぶように修行僧のリーダーとすることで、首という文字に、座するという字を書いて首座だいいちざとといいます。別名、第一座ともいい、修しゅぎょう行僧そうの一番目を担になう役目です。

曹洞宗そうとうしゅうでは、住職になる前に、必ずこの法戦式を務めなければなりません。皆様のお近くの曹洞宗寺院では住職が交代すると新しい住職の下でこの法戦式が行われることがあります。

また、大本山永平寺だいほんざんえいへいじや大本山總持寺だいほんざんそうじじ、各地にある修行道場においては、一年に二度この法戦式が行われます。首座となった修行僧は、多くの禅問答を掛け合います。問答と、儀式の緊張とで頭を一杯にしながら務めるのです。

法戦式で首座は住職より竹篋しゅべいという長ささんじゃく三尺（約九〇センチ）の竹で出来た黒い杖のような道具を受け取ります。古来、折れた弓を馬にあてる鞭として使ったことが由来といわれますが、竹篋返こらいしのもとになったものです。住職より、これを用いて、私の代わりに仏の教えを説いてみなさい。と渡された竹篋で修行僧たちと問答をします。

この時、首座は竹篋を持ちながら、心意気を表す言葉を、格調かくちょうたか高い文もんごん言で張りのある声を出して述べます。その内容は・・・

『お釈迦さまから代々受け継がれた仏の教えを説く機会を今、住職より与えられた。』

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

役目を頂いた以上他人に任せて逃げるわけにはいかない。未熟な私だが竹箆を預かった上には全力で仏の教えを説いてみようと思う。集まった修行僧よ、問答をしようではないか！』・・・

この宣言の中に「任にあたって他に譲り難し」という言葉があります。大事な役目を頂いたならば、それにおご驕り高ぶらず、逃げず、誠心誠意ぶつかって修行を全うすることが重要である、ということです。

人はみな、嫌だなとか、面倒くさいな、とか思う時もあるでしょう。しかしながら一旦引き受けた以上、「任にあたって他に譲り難し」の気持ちを持ち、体や心に無理をせず、自分の出来る限りの力で、頂いた役目を務められてはいかがでしょうか。

— 終 —